

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年4月 日

事業所名 放課後等デイサービス キララ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動をグループ別に行ったり、外での活動に切り替えたりしている。	利用人数によっては狭いことがあるので左記の内容にしている。
	2	職員の配置数は適切である	○			利用者の人数や個別配慮重点利用者の場合の対応要の場合に、配置人数を調整するようにしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の打ち合わせの中で設定している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			アンケートは年1度実施している。その結果を踏まえて改善内容を吟味している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		検討課題。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年間計画をたてている。	研修内容に偏りがなく、またできるだけバランスよく研修参加できるようにする。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		既成のシートを利用して、支援計画更新時期にモニタリングを通してニーズ把握に努めている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		現在はツール使用していないが、今後の検討課題としていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全員で活動内容等の提案をしあっている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの姿を通して内容検討をしている。	季節や遊びの回数、子どもの発達状況に応じて内容の検討をし、新たな遊びを入れたり、再度復活させる遊びを入れたりして工夫する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		利用時間の長い時は外に出る活動を入れるようにしている。	利用時間が長い時は活動内容により工夫が必要なので、場所を変えたり、内容が放課後とは少し違うものを取り入れるなど工夫すべき点を改善する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個・集団での遊びがそれぞれにできるようにしている。	個別配慮の必要な子が多いので、集団での活動が難しい。小集団での活動ができるような工夫も考慮するようにしたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		前日の反省を踏まえて当日の打ち合わせをしている。	細かい所での前日の反省が必要になるが、伝え忘れや伝わりにくさがある。子どもの状況確認や把握、共通理解に時間を取ることも必要になる。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	当日の打ち合わせ会議の中で前日の反省も含めている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		メモも利用して、記録を取るようになっている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		計画変更時にしている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達管理責任者が出席している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎時及び、トライアングル会議の場で連携している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				対象の子どもがいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		4月からの利用が決まった場合、前年度利用していた就学前の場に見学等の実施をしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		連携できていない。必要事項があれば対応していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			研修等には参加しているが、個別課題等についての助言は受けていない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		児童館利用はしているが、交流はしていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		できるだけいろんな職員が交代で参加できるようにしている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に伝えるようにしている。	伝えることはできているが、内容を保護者と理解し合えるかという点に関しては一人一人の職員の伝え方や内容理解において課題があり、難しい。まずは職員の正しい子ども理解が必要だ。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		職員スキルアップ優先のため、現状ではペアレント・トレーニング支援に至っていない。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		個別懇談会の場をそれに当てている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者のほぼ全員が父母の会への設立自体を不要としているため、存在しない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情を受け付けた場合には、苦情窓口になっている職員を中心に話し合い、必要がある場合は第三者委員会等外部組織に報告を指対応する。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			定期的発行はしていない。随時発行している。
	35	個人情報に十分注意している	○		職員には義務付けをしている。研修等で重要性の確認をしい	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個に応じて対応している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		事業所行事がない。今後の検討課題である。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各マニュアルを作成し、掲示や回覧などで知らせている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回、実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		所内での事例に基づき検証しながら、対応についての理解を確認している。	今年度は研修会参加が難しかったので、次年度にはできるだけ参加できるようにしたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		必要があると考えられるケースにはサービス計画に記載し、説明をしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		食べ物アレルギーの子どもの医師指示書はない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			日常の些細なことを記載し、今後の活動に生かせるようにしていく。